

CASE 01 | 特別支援学級での事例

【人間関係の形成×タブレット】

「交流学級に行きたい」



リモートで交流学級の授業を見ている。

○子どもの願い

- ・交流学級へ行きたい。
- ・友だちと一緒に活動に参加したい。

○対象の子どもの実態

- ・集団からの視線が苦手で、交流学級になかなか行くことができない。
- ・リモートであれば、初対面の児童と交流することができる。
- ・特別支援学級の教室では、教員や年下の子どもとコミュニケーションをとることができる。
- ・自分でインターネット検索をすることができる。

○指導する自立活動の区分・項目

- | | |
|------------|--------------------------------------|
| 区分：心理的な安定 | 項目：障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。 |
| 区分：人間関係の形成 | 項目：集団への参加の基礎に関すること。 |

○目標

- ・交流学級の授業や活動をリモートで視聴し、学習に参加することができる。

○指導内容

- ・リモートで交流学級の子どもが学習している内容を視聴する。
- ・リモートで視聴しながらワークシートを記入し、学習の定着を図る。
- ・リモートで受ける授業を段階的に増やしていく。

○使用 ICT 機器:タブレット型パソコン2台(撮影用1台・受信用1台)
マイクスタンド タブレットスタンド スピーカー



リモートで学習したワークシートを交流学級の教員に赤丸をつけてもらえることが学習の励みとなった。



教室の後方から活動全体が映るようにタブレットを配置した。

○取り組む上で工夫したことや困ったこと

①ICT 機器の整備

- ・タブレットで撮影するにあたり、マイクスタンドにタブレットスタンドを取り付けることで活動全体を撮影することができた。
- ・上記の機材を校内のさまざまな場所へ持ち運び、リモートで撮影ができるようにした。
- ・受信用タブレットの音声聞き取りにくかったため、スピーカーを備え付けた。
- ・特別支援学級の子どもにとって初めはリモート参加の緊張が強かったため、教室の後方から活動全体を撮影するようにした。

②事前の準備

- ・交流学級の担任と学習内容について確認し、授業で使用するワークシート等を事前に用意した。

③リモート配信内容の工夫

- ・リモートは「6年生を送る会」「たて割班活動」「学年集会」など子どもが興味をもっている内容から配信をした。リモート配信に慣れてきた頃から子どもが見たいかどうか確認しながら「総合的な学習の時間」「外国語」「保健」など授業に関わるものを配信した。

○【成果】子ども・教員等の変化

(子ども)

- ・リモートでの学習を開始して9ヶ月ほど経つと「教室へ行くことにチャレンジせなあかな」と子どもがつぶやく。1年半ぶりに交流学級の友だちと教室で一緒に授業を受けることができた。
- ・交流学級で過ごせる時間が増えた。

(教員)

- ・リモートによる視聴が、学習意欲の向上や友だちとふれあうきっかけになることがわかり、特別支援学級での授業づくりの工夫に繋がった。

○今後、自立活動に ICT 機器を活用する教員へのメッセージ

交流学級の授業や活動をリモートで特別支援学級に配信することで、子どもの心理的な負担を軽減した環境で学習を保障することができた。子どもが安心感を感じて学習できたことが、交流学級へ足を運ぶ一歩につながったのではないかと考えている。子どもの実態に合わせながら、ぜひ、校内でのリモートを検討していただきたい。